

千年の森便り No.156

2016.07.22

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

事務局長 伊藤道男

sennenomori@hotmail.co.jp

活動の記録

7月12日(火) 晴 臨時活動日

参加者は、新井通子、秋元、伊藤、坂本の4名。

ギャップ更新地の植生調査を行い、20区画のうち累計で7区画が完了した。(詳細後述)

明るい調査区にはタマムシやコガネクモなど、多くの昆虫を見ることができた。ヤマユリも咲いていた。また、食害が心配されたツチアケビ2株は見た目には特に問題はないようだった。(伊藤)



7月18日(日) 海の日 晴 夏のきのご観察会

参加会員は16名；秋元、新井通子、伊藤、鶴沢、久我夫妻、栗山、田島、成沢、根本、福島、藤川、降幡、真鍋、村野、山口。講師は県中央博の吹春先生、観察会ご案内に応じて参加下さった常連の小倉夫妻、伊豆夫妻、内藤、吹春(公)、片山、高野、森さんなどきのこのベテランに加え、元会員のミさんの家族、そして初参加の四街道メダカの会の大谷・任海・吉原夫妻、更に生涯大学OB会の梶家・近藤・福井・国吉さん参加で総勢40名。このうち2-3歳の子供が4名、試料袋にきのこを集めたり、観察したり楽しそうで、森の幼稚園も賑やかでした。

今年はきのこがやや少なかったものの、大勢で採集したきのこが集まると、広場はきのこいっぱいでした。講師の分かりやすく面白いきのこの話に皆さん聴き入りました。きのこの匂いや苦みや辛み、食か毒か、食べ方の紹介には話が盛り上がり、きのこ植物の共生関係、森の中でのきのこの役割の話は特に興味を引いたようです。吹春先生ありがとうございました。

参加の皆さまお疲れ様でした。また当日朝早く出勤して安全・快適に観察会ができるよう、森や広場を整備しテントを張って下さった整備班の皆さんに感謝します。(真鍋)



○フィールド観察

午前中はフィールドのきのこ観察と見本採取、グループごとに巨木林方面、ほこら山から禁断の岬方面、ホテイ岬方面ときのこ探し、きのこは多くは無かったものの、きのこを見つけると歓声が上がり、熱心に観察、撮影し、見本を採取していました。吹春コースは巨木林を中心に、小さいきのこや硬いきのこも丹念に探しじっくり観察しました。吹春先生は、珍しいアオミドリタマゴテングタケ発見して釘づけに、人は次々に群を離れ、最後は親子3人1組が残りました。(真鍋)



○観察・採集したきのこ目録 (降幡会員記録、吹春講師監修)

★菌界, 担子菌門, ハラタケ綱

●ベニタケ目	○ベニタケ科 ベニタケ属：ベニタケ属種多数 ウコンハツ、クロハツ、クロハツモドキ、カワリハツ チチタケ属：チチタケ、ケシロハツモドキ
●ハラタケ目	○ヒラタケ科 ウスヒラタケ ○キシメジ科 ミネシメジ ○クヌギタケ科 ヒメカバイロタケ (現地ではキシメジ科と説明) ○タマバリタケ科 ヒロヒダタケ, ナラタケモドキ (現地ではこの2種はキシメジ科と説明) ○テングタケ科 クロタマゴテングタケ, カブラテングケタ, コテングタケモドキ アオミドリタマゴテングタケ(珍), ドクツルタケ, フクロツルタケ (広義), ツルタケ, オオツルタケ ○ウラベニガサ科 ベニヒダタケ ○ナヨタケ科 ミヤマザラミノヒトヨタケ (現地ではヒトヨタケ科と説明) ○アセタケ科 アセタケ属種多数 (現地ではフウセンタケ科と説明)
●イグチ目	○イグチ科 アイソメクロイグチ, ダイダイイグチ, ミドリニガイグチ, アシナガイグチ, キヒダケタ, アヤメイグチの仲間, ニガイグチモドキ, イロガワリの仲間, キニガイグチ ○ヒダハタケ科 サケバタケ
●アンズタケ目	○アンズタケ科 アンズタケ
●ラッパタケ目	○ラッパタケ科 ウスタケ
●イボタケ目	○イボタケ科 ボタンイボタケ, キイブライボタケ ○マツバハリタケ科 ケロウジ
●タマショレイタケ目	○マンネンタケ科 コフキサルノコシカケ ○タマショレイタケ科 キアシグロタケ, ケガワタケ (現地ではヒラタケの仲間と説明) ○ツガサルノコシカケ科 シロカイメンタケ, ヒラフスベ ○マクカワタケ科 アセハリタケ
●キクラゲ目	○アカキクラゲ科 ツノマタケタ
●ヒメツチグリ目	○ヒメツチグリ科 ヒメツチグリ属種

★アミーバ界, アミーバ動物門

●変形菌綱, ムラサキホコリ目	ムラサキホコリ
●原生粘菌綱, ツノホコリ目	エダナシツノホコリ

「岩波生物学辞典, 第5版」(2013), 「日本のきのこ, 増補改訂版」(2011), 「Index Fungorum」(<http://www.indexfungorum.org/names/names.asp>) を参照

○講師解説の要点（6-7 頁に記載）

○クロムヨウランにも昆虫の食害

広場横のクロムヨウランの群生地、花茎が途中から折れたり枯れたりしたものを 7 本持ち帰り詳しく観察したところ、そのうちの 4 本でそれぞれ 1 つずつ蛹を見つけました。大きさは 2mm くらいで、花茎の中にかろうじて納まる大きさです。また、幼虫は見つかりませんでした。蛹を見たところ、森林研究所内でクマガイソウや他のラン科の植物を食害しているハモグリバエ類の蛹によく似ています。現在、蛹を容器に入れて羽化するのを待っています。ハエの同定は専門家でなければ難しいので、羽化したら成虫を専門家に送り見てもらおうと思っています。（福島）



○ツチアケビ

6月に生き残っていた千年広場脇のツチアケビ2株は、7月12日に続き、18日も無事でした。（真鍋）

前回活動日の6月19日、枯れていた花茎を採取し、佐賀大学の先生に調査をお願いしたところ、ある種の昆虫の食害があることが分かりました。昆虫の種名は不明です。来シーズンも引き続き調査を続けます。（福島）



ツチアケビ 7月12日



ツチアケビ 7月18日

○昆虫観察記録

ニイニゼミの合唱が森に響く。ちょっと控えめなニイニゼミの声は心地よい。明るい所では夏の蝶が活発に飛び、暗い所では蛾がひかえめに潜む。私は「明るい暑い所」と「暗い涼しい所」を行ったり来たり……。夏の虫探しは体力勝負だけど楽しい！先月、樹液が出ていた木はもう出ておらず残念。オオカマキリの幼虫が多かった。（田島）

イチモンジチョウ

黒地に白い一直線の帯が目立つ。幼虫はスイカズラなどを食べる。



ホソバセセリ

7月に現れる希少種。翅に白い斑点が沢山ある。「きれいだね」と新井さん。



ムラサキシジミ♀

翅を開くと紫色の表翅が美しい！コナラの葉裏に卵を産んでいた。



スカシエダシャク

枯葉のようで目立たないが、翅に透けた部分があるオシャレな蛾。



(他に観察された昆虫) モリチャバネゴキブリ、タンザワフキバッタ、クサギカメムシ幼虫、アオバハゴロモ、コガシラアワフキ、オオヒシウンカ、オオセンチコガネ、オオヨツボシゴミムシ、カナブン、オオクロコガネ、クロマルエンマコガネ、ヒメカメノコテントウ、キマワリ、オオナガコメツキ、コガタスズメバチ、オオモンクロ

クモバチ、キボシアシナガバチ、ヒメウマノオバチ、ムネアカオオアリ、シオヤアブ、サキグロムシヒキ、アオスジアゲハ、ジャコウアゲハ、クロハグルマエダシャク、ウスクリモンヒメハマキ、コウンモンクチバ、ウスグロノメイガ sp

○ギャップ更新地調査

7月18日に2区画の調査を行い20区画のうち累計で9区画が完了した。秋元会員により昨年度と今年の出現種の対比ができる調査表が用意されたため、調査はスムーズに進み懸案だった調査による踏みつけの問題もほぼ回避することが出来た。

一部を調査した段階だが、昨年度芽生えで記載されたものの相当数が今年は消え、同数程度の新たな種が今年になって出現している区画が多い印象を持った。思ったより、種の消長はダイナミックなようだ。（伊藤）

○ヒメコマツ保護区にマムシ

この日ほこら山近くで何人かがバンビを目撃しましたが、撮影出来ていません。



マムシ 7月18日



ニホンジカ 7月7日 a.m7:14



ニホンザル 7月7日 a.m6:48

○センサーカメラの動物たち 今月センサーカメラにニホンジカ、ニホンザル、タヌキ?など映っていました。

キノコ観察会 初めての参加

3歳と1歳の子どもを連れて参加しました。四街道市では、ほとんど見られないトビの姿に「おお！」と思いながら、揺れるつり橋をドキドキしながら渡りました。3歳の娘はつり橋に開いた穴に顔を付けて下の様子を楽しんでいました。観察会の感想としては、40人もの方が集まるところもキノコが探し出せるのかと感心致しました。大小、色さまざまで子どもたちも興味津々でした。先生のキノコの生活の話が大変興味深かったです。秋の観察会が楽しみです。（四街道市 大谷蘭、凜夏、孝太郎）



これからも毎年

蒸し暑い夏の中、1年ぶりの豊英島で涼しげな1日を過ごしました。あと2日で2歳になる息子は、小さな掌半分の大きさの、紫色に光っているコガネムシに夢中、キノコの解説も土遊び始める前はおとなしげに聞いていた。仕事を始めてから、自然と離れていたが、森の中に戻ると、落ち着いた感じがします。これからも毎年よろしくお願いします。

（柏市 ミ・ルイン、カ・ジョセイ、カ・ショ）





きのこ観察会に参加して

豊英島の千年広場に着くとすぐ、蚊に刺されました。周りを見ると自分は半袖、皆さんは長袖 行列の後に
ついて歩き現地につくと、「きのこを探さない」と解散。「これは“なにたけ”で“こうところにある”」
と誰かに説明して貰うものと思っていました。最初にみつけた小さいきのこは倒木の上、それから同じような
ところから形の違うもう一つ、木の根の上にもう一つ、“方向がわからず迷子になるかもしれない”と写真
を撮っているところを見て回りました。

千年広場に帰りブルーシートの上を見て驚きました。何処にあったのか大量の大きなきのこが並んでいま
した。山溪の“きのこハンドブック”を出して見ましたが名前が判らなければ探せません。種類と名前毎に分
類し名札が付けられるまで待ちました。カメラを持ってくればよかった。「形態・傘の裏・孢子紋から見る」、
吹春先生の学術的な説明に聞き入りました。これだけ途切れなく連続して説明出来るとは！すごい人だと思
いました。家に持ち帰った資料を見て、毒キノコも有益、きのこの多様な役割、自然は共存共栄、を感じま
した。“せこい”きのこもあるのかな”

資料“ちば千年の森をつくる会”を見て「自分ももっと若ければ、千年の森が近ければ、」と思いました。
約15年前私は谷津干潟の清掃とアオサ除去のグループに5年程参加しました。大病で70日入院後体力低下
し退会しました。（八千代市 福井信）

隔絶された素晴らしい自然

千年の森には、ぜひ一度行きたいと思っていましたが、実現できてとても嬉しいです。まわりから隔絶され
た面白い環境での自然、素晴らしいですね。保全となると、様々な問題があるかとは思いますが、みなさん元
気ですね。研究者との繋がりが密なのはとても 大事だと思いました。学ばなければと感じました。

キノコ、厚い図鑑は持っていましたが、キチンとした解説を聞いたことがなかったので勉強になりました。
ランとの関係でも切っても切れない関係があるので、その第一歩になりました。（四街道市 任海正衛）

お知らせ

○8月の定例活動日

8月21日（日）、9時30分 君津市清和自然休養村管理センター集合、光環境調査（着葉期）、ギャップ林
森林調査、植物・きのこ・野鳥・昆虫調査など。

○臨時活動日

定例活動日以外にきのこや動植物調査・観察などのため入林予定の方は、集合場所・時刻・活動内容などを連
絡（メール[sennennomori@hotmail.co.jp]又は電話 090-6929-6811（伊藤事務局長））下さい。会員に呼
び掛けて、参加希望者を募りますので、出来れば1週間前に。

吹春先生解説の要点（記録；福島、監修：吹春）

きのこは、上から見て、下（ヒダの色）から見て判断する。いつものように、胞子紋の色による区分で。

ベニタケ科

ベニタケ属はルスラ、チチタケ属をラクタリウスと呼ぶ。この二つは覚えておくと自然観察会などの際にカッコイイ。きのこは縦に裂けやすいが、ベニタケの仲間は縦にも横にも壊れやすい。ベニタケの仲間は種類が多く、名前が付かないものが多いが、ほとんど全部が菌根菌で森の中で重要な役割を果たしている。

きのこの暮らし方は大きく2種類ある。ひとつは木材を分解するもの。もうひとつは菌根菌で、植物と栄養のやり取りをしている。

クロハツ：ひだが粗い、黒い、赤くなってそのあと黒くなる変色性あり

クロハツモドキ：クロハツに比べてヒダがやや密。ベニタケは、乳液が出るものと出ないものがある。

ケシロハツモドキ：ピロード状の毛がある、乳液辛い。毛がないものはツチカブリ。

チチタケ：乳液は白から褐色に変色。栃木県では世界一美味しいきのこといわれている。

カワリハツ：乳液が出ない

ヒラタケ科 ヒラタケ属はプリューロータス。木に棚型につく。

ウスヒラタケ：食用

キシメジ科 特徴がない

ミネシメジ：セッケン臭、あまり美味しくない。

バカマツタケもこの仲間。バカマツタケの学名は、トリコローマ バカマツタケ。

ナラタケの仲間（アルミラリア）

ナラタケモドキ：食用

ツチアケビ（ラン科）が大きいのは、ナラタケという強力な木材腐朽菌から栄養をもらっているため。ランはしたたかで、菌根菌と腐朽菌の両方に依存している。

豊英島でツチアケビが弱ってきているのは、森の整備が進み倒木などが減り腐朽菌が減ったことによるのかもしれない。つまり、ツチアケビが減ってきているのは活動の成果かも？

ヒロヒダタケ：ミネシメジと同じくらいひだが広い

テングタケ科

ツルタケ：ヒダに縁取りなし、柄は白

オオツルタケ：ヒダに黒い縁取り、柄に模様あり

ドクツルタケ：味は非常によいが猛毒

フクロツルタケ：猛毒

クロタマゴテングタケ：猛毒、表面に模様がある

コテングタケモドキ：食べられるという人もいる

アオミドリタマゴテングタケ：とても珍しい、千葉菌類

談話会で採ったものがタイプ標本となっている。

カブラテングタケ：東南アジアで記録、新潟県のミズナラ

でも発生する。千年の森を代表するきのこ。

ウラベニガサ科 胞子紋がピンク色

ベニヒダタケ：ヒダがやや赤味がかかる

ヒトヨタケ科

ミヤマザラミノヒトヨタケ：胞子が真っ黒、酵素で分解さ



クロタマゴテングタケ



アオミドリタマゴテングタケ



カブラテングタケ



ナラタケモドキ

れて雨にとけて胞子を分散させる

アセタケの仲間 食べたら汗が出る、傘の表面が藁葺き屋根みたい。100種類くらいあって名前が付かない。

イグチ科 傘の裏がヒダではない。

ミドリニガイグチ：食べたら苦い、管孔の縁が紫色

キニガイグチ：シイカシ林のきのこ、ここではあまり出ていない

ダイダイイグチ：ダイダイ色

アシナガイグチ：おいしい

イロガワリの仲間：おいしい、ホイル焼き

キヒダタケ：傘の裏はヒダだけど胞子や構造はイグチ

サケバタケ：ニッケイ臭、毒、菌根菌ではなく腐朽菌

イボタケ科 いろいろな植物と外生菌根をつくる、ギンランやキンランにも菌根菌として栄養供給している。

ボタンイボタケ：東アジアのシイカシ林のきのこ

サルノコシカケの仲間 腐朽菌でリグニンを分解できる。動物はリグニンを分解できない。森の掃除屋さん。

ヒラフスベ：アイカワタケと同じものであることがわかった

その他

ムラサキホコリ：変形菌とか粘菌と言われる（菌類ではない）、木材の中のバクテリアを食べる。

ウスタケ：モミの外生菌根菌であり、モミがあるところに出る

ツノマタタケ：キクラゲの仲間